

古文ドリル：「しか」の識別 100問

対象：高校生・大学受験生（共通テスト～難関私大・国公立二次まで） 著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太

はじめに：「しか」の正体（2用法）

古文の「しか」は、**直前の語の活用形を見るだけ**で見分けられます。入試では**過去の助動詞「き」の已然形「しか」**が圧倒的に頻出です（係り結びや「～しかば」「～しかど」の形）。

用法	接続（直前の形）	訳	例
① 過去の助動詞「き」の已然形	連用形+しか	～た（已然形→ば/ど/ども、こそ結び）	あり しか ば
② 副助詞（限定）	体言・副詞・連体形など+しか	～だけ・～しか～ない（下に打消）	花 しか 咲かず

過去「き」の活用は（せ）／○／き／し／しか／○。已然形が「しか」です。已然形なので、**後ろに「ば・ど・ども」がつくか、係助詞「こそ」の結び**になります。

識別の鉄則

- 「しか」の直前が**連用形**（あり・言ひ・見・聞き等）→ **過去の助動詞「き」の已然形**。
- 文中に**係助詞「こそ」**があれば、その結びとして文末が「～しか」（已然形）になる＝過去「き」。
- 「～しかば」「～しかど（も）」の形も**過去「き」已然形**。
- 直前が**体言・副詞**で、下に**打消（ず・じ・なし）**があれば → **副助詞「しか」**（限定「～だけ・～しか～ない」）。
- 副助詞は上代（万葉集）に多く中古以降は少ない。迷ったら**まず過去「き」を疑う**のが得策。

🎯 解き方のコツ（試験本番で3秒）

コツ① 直前が「連用形」かを見る

- 「あり**しか**」「言ひ**しか**」「見**しか**」「聞き**しか**」→ 連用形+しか＝**過去「き」の已然形**。

コツ② 「こそ」「ば」「ど・ども」を探す

- 「こそ～**しか**」は係り結び（已然形結び）＝過去「き」。
- 「～**しか**ば」（～たので）「～**しか**ど（も）」（～たけれど）も過去「き」已然形。

コツ③ 「体言+しか+打消」は副助詞

- 「花**しか**咲**かず**」「これ**しか**見え**ず**」→ 体言+しか+打消＝**副助詞**（限定）。

よくある引っかけ

- 「しか」を見て反射的に現代語の「～しかない」（副助詞）と決めない。直前が連用形なら過去「き」。
- カ変「来」+しか＝「来（き）しか」、サ変「す」+しか＝「せしか」も過去「き」已然形（特殊な接続）。
- 係助詞「こそ」があれば文末「しか」は已然形結び＝過去「き」。

採点表

各セッションごとに自己採点し、最後に合計を記録してください。

- 基礎（Q1～Q20）： /20
- 標準（Q21～Q50）： /30
- 応用（Q51～Q80）： /30
- 入試レベル（Q81～Q100）： /20
- 合計： /100

【第1部】基礎編（Q1～Q20）

連用形+しか（過去「き」已然形）と、体言+しか（副助詞）を純粹に見分ける。

Q1. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

あり**しか**ば、出でぬ。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 **解説**：「あり」はラ変「あり」連用形。連用形+しか＝過去「き」已然形。「しかば」で「あったので」。已然形+ば。

Q2. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

花**しか**咲**かず**。

答え：副助詞「しか」（限定） **解説**：「花」は体言。体言+しか+打消「ず」＝限定の副助詞。「花だけしか咲かない」。

Q3. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

見しかば、あやし。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 解説：「見」は上一段「見る」連用形。連用形+しか＝過去「き」已然形。「見しかば」で「見たところ」。

Q4. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

言ひしかど、聞かず。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 解説：「言ひ」は四段「言ふ」連用形。連用形+しか＝過去「き」已然形。「言ひしかど」で「言ったけれども」。已然形+ど。

Q5. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

これしか知らず。

答え：副助詞「しか」（限定） 解説：「これ」は体言（代名詞）。体言+しか+打消「ず」＝限定の副助詞。「これだけしか知らない」。

Q6. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

聞きしかば、驚きぬ。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 解説：「聞き」は四段「聞く」連用形。連用形+しか＝過去「き」已然形。「聞いたので」。

Q7. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

思ひしかども、かなはず。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 解説：「思ひ」は四段「思ふ」連用形。連用形+しか＝過去「き」已然形。「思ったけれども」。已然形+ども。

Q8. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

君しか頼まず。

答え：副助詞「しか」（限定） **解説：**「君」は体言。体言+しか+打消「ず」＝限定の副助詞。「あなただけしか頼りにしない」。

Q9. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

来（き）**しか**ば、待ちけり。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 **解説：**「来（き）」はカ変「来」連用形。連用形+しか＝過去「き」已然形。「来たので」。カ変連用形は「き」。

Q10. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

せ**しか**ば、悔ゆ。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 **解説：**「せ」はサ変「す」未然形。サ変・カ変には「き」が未然形にも付く特殊接続があり、「せしか」で過去「き」已然形。「したので」。

Q11. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

ただ一人**しか**なし。

答え：副助詞「しか」（限定） **解説：**「一人」は体言。体言+しか+打消「なし」＝限定の副助詞。「ただ一人しかいない」。

Q12. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

ありがたくこそ侍り**しか**。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 **解説：**「侍り」はラ変「侍り」連用形。連用形+しか＝過去「き」已然形。文中の係助詞「こそ」を受けた已然形結び（係り結び）。「ございました」。

Q13. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

水**しか**飲まず。

答え：副助詞「しか」（限定） **解説：**「水」は体言。体言+しか+打消「ず」＝限定の副助詞。「水だけしか飲まない」。

Q14. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

受け**しか**ば、喜びぬ。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 **解説：**「受け」は下二段「受く」連用形（e段）。連用形+しか＝過去「き」已然形。「受け取ったので」。

Q15. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

名をこそ聞き**しか**。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 **解説：**「聞き」は四段「聞く」連用形。係助詞「こそ」を受けた已然形結び。「名前を聞いた」。

Q16. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

一夜**しか**あらず。

答え：副助詞「しか」（限定） **解説：**「一夜」は体言。体言+しか+打消「ず」＝限定の副助詞。「一夜だけしかない」。

Q17. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

立ち**しか**ば、見送りぬ。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 **解説：**「立ち」は四段「立つ」連用形。連用形+しか＝過去「き」已然形。「立った（出発した）ので」。

Q18. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

あはれにこそ覚え**しか**。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 **解説：**「覚え」は下二段「覚ゆ」連用形。係助詞「こそ」を受けた已然形結び。「しみじみと思われた」。

Q19. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

我**しか**知らず。

答え：副助詞「しか」（限定） **解説：**「我」は体言（代名詞）。体言+しか+打消「ず」＝限定の副助詞。「私だけしか知らない」。

Q20. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

月日経**しか**ば、忘れぬ。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 **解説：**「経」は下二段「経（ふ）」連用形。連用形+しか＝過去「き」已然形。「月日が経ったので」。

【第2部】標準編（Q21～Q50）

「～しかば／～しかど／こそ～しか」の形を中心に、過去「き」已然形を確実に見抜く。

Q21. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

雨降り**しか**ば、道あしし。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 **解説：**「降り」は四段「降る」連用形。連用形+しか+ば＝過去「き」已然形。「雨が降ったので、道が悪い」。

Q22. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

仰せられ**しか**ば、かしこまりぬ。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 **解説：**「仰せられ」は「仰せらる」連用形。連用形+しか+ば＝過去「き」已然形。「おっしゃったので、かしこまった」。

Q23. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

いと興ありとこそ思ひ**しか**。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 **解説：**「思ひ」は四段連用形。係助詞「こそ」を受けた已然形結び。「たいそう趣があったと思った」。

Q24. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

約せ**しか**ど、来ず。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 **解説：**「約せ」はサ変「約す」未然形。「せしか」で過去「き」已然形。「約束したけれども、来ない」。已然形＋ど。

Q25. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

暮れ**しか**ば、宿借りぬ。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 **解説：**「暮れ」は下二段「暮る」連用形。連用形＋しか＋ば＝過去「き」已然形。「日が暮れたので、宿を借りた」。

Q26. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

いみじくこそ悲**し**かり**しか**。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 **解説：**「悲しかり」は形容詞「悲し」連用形（カリ活用）。係助詞「こそ」を受けた已然形結び。「たいそう悲しかった」。

Q27. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

風吹き**しか**ば、波荒し。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 **解説：**「吹き」は四段「吹く」連用形。連用形＋しか＋ば＝過去「き」已然形。「風が吹いたので、波が荒い」。

Q28. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

花のみこそ咲**き****しか**。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 **解説：**「咲き」は四段「咲く」連用形。係助詞「こそ」を受けた已然形結び。「花だけが咲いた」。「のみ」が限定で「しか」自体は過去助動詞である点に注意。

Q29. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

別れ**しか**ど、忘れず。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 **解説：**「別れ」は下二段「別る」連用形。連用形+しか+ど=過去「き」已然形。「別れたけれども、忘れない」。

Q30. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

ただ夢**しか**頼むものなし。

答え：副助詞「しか」(限定) **解説：**「夢」は体言。体言+しか+打消「なし」=限定の副助詞。「ただ夢だけしか頼るものがない」。

Q31. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

訪ね来**しか**ば、留守なりき。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 **解説：**「来(き)」はカ変連用形。「来しかば」で過去「き」已然形。「訪ねて来たところ、留守だった」。

Q32. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

心細くこそ覚え**しか**。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 **解説：**「覚え」は下二段「覚ゆ」連用形。係助詞「こそ」を受けた已然形結び。「心細く思われた」。

Q33. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

いと寒かり**しか**ば、火を焚く。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 **解説：**「寒かり」は形容詞「寒し」連用形(カリ活用)。連用形+しか+ば=過去「き」已然形。「たいそう寒かったので、火を焚く」。

Q34. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

われ一人**しか**残らず。

答え：副助詞「しか」(限定) **解説：**「一人」は体言。体言+しか+打消「ず」=限定の副助詞。「私一人しか残らない」。

Q35. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

月見**しか**ば、故郷を思ふ。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 **解説：**「見」は上一段「見る」連用形。連用形+しか+ば=過去「き」已然形。「月を見たところ、故郷を思う」。

Q36. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

たびたびこそ申し**しか**。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 **解説：**「申し」は四段「申す」連用形。係助詞「こそ」を受けた已然形結び。「たびたび申し上げた」。

Q37. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

雪積もり**しか**ば、道閉ぢぬ。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 **解説：**「積もり」は四段「積もる」連用形。連用形+しか+ば=過去「き」已然形。「雪が積もったので、道がふさがった」。

Q38. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

名のみ**しか**残らず。

答え：副助詞「しか」(限定) **解説：**「名のみ」の後「しか」+打消「ず」。体言相当+しか+打消=限定の副助詞。「名前だけしか残らない」。

Q39. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

あやしと見**しか**ど、過ぎぬ。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 **解説：**「見」は上一段「見る」連用形。連用形+しか+ど=過去「き」已然形。「不思議だと見たけれども、通り過ぎた」。

Q40. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

いとうれしくこそ侍り**しか**。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 **解説：**「侍り」はう変「侍り」連用形。係助詞「こそ」を受けた已然形結び。「たいそううれしうございました」。

Q41. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

言伝（ことづ）て**しか**ば、安し。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 **解説：**「ことづて」は下二段「ことづつ」連用形。連用形+しか+ば=過去「き」已然形。「言伝てしたので、安心だ」。

Q42. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

一日**しか**あらず。

答え：副助詞「しか」（限定） **解説：**「一日」は体言。体言+しか+打消「ず」=限定の副助詞。「一日しかない」。

Q43. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

帰り**しか**ば、人もなし。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 **解説：**「帰り」は四段「帰る」連用形。連用形+しか+ば=過去「き」已然形。「帰ったところ、人もいない」。

Q44. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

げにとこそ思ひ**しか**。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 **解説：**「思ひ」は四段連用形。係助詞「こそ」を受けた已然形結び。「なるほどと思った」。

Q45. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

召し**しか**ば、参りぬ。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 **解説：**「召し」は四段「召す」連用形。連用形+しか+ば=過去「き」已然形。「お呼びになったので、参上した」。

Q46. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

ただ涙**しか**出でず。

答え：副助詞「しか」（限定） **解説：**「涙」は体言。体言+しか+打消「ず」＝限定の副助詞。「ただ涙しか出ない」。

Q47. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

旅寝（たびね）せ**しか**ば、夢も見ず。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 **解説：**「せ」はサ変「す」未然形。「せしか」で過去「き」已然形。「旅寝をしたので、夢も見ない」。

Q48. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

心にしみてこそ聞き**しか**。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 **解説：**「聞き」は四段連用形。係助詞「こそ」を受けた已然形結び。「心にしみて聞いた」。

Q49. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

待ち**しか**ど、来ずなりぬ。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 **解説：**「待ち」は四段「待つ」連用形。連用形+しか+ど＝過去「き」已然形。「待ったけれども、来ないままになった」。

Q50. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

一言（ひとこと）**しか**残さず。

答え：副助詞「しか」（限定） **解説：**「一言」は体言。体言+しか+打消「ず」＝限定の副助詞。「一言しか残さない」。

【第3部】 応用編（Q51～Q80）

形容詞のかり活用+しか、紛らわしい連用形、副助詞の打消呼応を見抜く。

Q51. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

めでたくこそ侍り**しか**。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 **解説：**「侍り」はラ変連用形。係助詞「こそ」を受けた已然形結び。「すばらしいございました」。

Q52. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

露**しか**置かぬ朝。

答え：副助詞「しか」（限定） **解説：**「露」は体言。体言+しか+打消「ぬ」＝限定の副助詞。「露だけしか置かない朝」。

Q53. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

あさましくこそ覚え**しか**。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 **解説：**「覚え」は下二段連用形。係助詞「こそ」を受けた已然形結び。「あきれるほどに思われた」。

Q54. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

老い**しか**ば、力なし。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 **解説：**「老い」は上二段「老ゆ」連用形。連用形+しか+ば＝過去「き」已然形。「老いたので、力がない」。

Q55. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

我のみ**しか**知る人なし。

答え：副助詞「しか」（限定） **解説：**「我のみ」の後「しか」+打消「なし」。体言相当+しか+打消＝限定の副助詞。「私だけしか知る人がいない」。

Q56. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

いかにとこそ問ひ**しか**。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 **解説：**「問ひ」は四段「問ふ」連用形。係助詞「こそ」を受けた已然形結び。「どうしたのかと尋ねた」。

Q57. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

恋ひ**しか**ば、文書く。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 **解説：**「恋ひ」は上二段「恋ふ」連用形。連用形+しか+ば=過去「き」已然形。「恋しく思ったので、手紙を書く」。

Q58. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

をかしくこそ見え**しか**。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 **解説：**「見え」は下二段「見ゆ」連用形。係助詞「こそ」を受けた已然形結び。「趣深く見えた」。

Q59. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

ひとひら**しか**散らず。

答え：副助詞「しか」(限定) **解説：**「ひとひら」は体言。体言+しか+打消「ず」=限定の副助詞。「一枚しか散らない」。

Q60. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

あまた集まり**しか**ど、定まらず。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 **解説：**「集まり」は四段「集まる」連用形。連用形+しか+ど=過去「き」已然形。「大勢集まったけれども、決まらない」。

Q61. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

戦(たたか)ひ**しか**ば、勝ちぬ。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 **解説：**「戦ひ」は四段「戦ふ」連用形。連用形+しか+ば=過去「き」已然形。「戦ったので、勝った」。

Q62. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

かばかりとこそ見え**しか**。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 **解説：**「見え」は下二段連用形。係助詞「こそ」を受けた已然形結び。「これほどと見えた」。

Q63. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

灯（ともしび）**しか**頼みなし。

答え：副助詞「しか」（限定） **解説：**「灯」は体言。体言+しか+打消「なし」＝限定の副助詞。「灯火しか頼りがない」。

Q64. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

出で立ち**しか**ば、見送りき。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 **解説：**「出で立ち」は四段「出で立つ」連用形。連用形+しか+ば＝過去「き」已然形。「出発したので、見送った」。

Q65. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

いみじとこそ聞き**しか**。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 **解説：**「聞き」は四段連用形。係助詞「こそ」を受けた已然形結び。「すばらしいと聞いた」。

Q66. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

ただ一輪（いちりん）**しか**残らず。

答え：副助詞「しか」（限定） **解説：**「一輪」は体言。体言+しか+打消「ず」＝限定の副助詞。「ただ一輪しか残らない」。

Q67. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

別れ告げ**しか**ば、涙落つ。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 **解説：**「告げ」は下二段「告ぐ」連用形。連用形＋しか＋ば＝過去「き」已然形。「別れを告げたところ、涙が落ちる」。

Q68. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

ありがたくこそ承（うけたまは）り**しか**。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 **解説：**「承り」は四段「承る」連用形。係助詞「こそ」を受けた已然形結び。「ありがたく承った」。

Q69. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

一人**しか**頼む人なし。

答え：副助詞「しか」（限定） **解説：**「一人」は体言。体言＋しか＋打消「なし」＝限定の副助詞。「一人しか頼る人がいない」。

Q70. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

思ひ初（そ）め**しか**ば、忘れず。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 **解説：**「初め」は下二段「初む」連用形。連用形＋しか＋ば＝過去「き」已然形。「思いはじめたので、忘れられない」。

Q71. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

暮らし**しか**ど、心慰まず。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 **解説：**「暮らし」は四段「暮らす」連用形。連用形＋しか＋ど＝過去「き」已然形。「一日を過ごしたけれども、心が慰まない」。

Q72. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

このことのみこそ案じ**しか**。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 **解説：**「案じ」はサ変「案ず」連用形。係助詞「こそ」を受けた已然形結び。「このことだけを心配した」。「のみ」が限定で、「しか」は過去助動詞。

Q73. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

一すぢ（一筋）**しか**通らず。

答え：副助詞「しか」（限定） **解説：**「一すぢ」は体言。体言+しか+打消「ず」＝限定の副助詞。「一筋しか通らない」。

Q74. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

申し受け**しか**ば、いそぎ参る。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 **解説：**「受け」は下二段「受く」連用形。連用形+しか+ば＝過去「き」已然形。「お受けしたので、急いで参上する」。

Q75. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

寝（い）ね**しか**ど、寝（ね）られず。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 **解説：**「寝（い）ね」は下二段「寝（い）ぬ」連用形。連用形+しか+ど＝過去「き」已然形。「横になったけれども、眠れない」。

Q76. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

我**しか**あらじ。

答え：副助詞「しか」（限定） **解説：**「我」は体言。体言+しか+打消推量「じ」＝限定の副助詞。「私だけしかいないだろう」。

Q77. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

よろこびてこそ受け**しか**。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 **解説：**「受け」は下二段連用形。係助詞「こそ」を受けた已然形結び。「喜んで受け取った」。

Q78. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

旅立ち**しか**ば、便りもなし。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 **解説：**「旅立ち」は四段「旅立つ」連用形。連用形+しか+ば=過去「き」已然形。「旅立ったので、便りもない」。

Q79. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

月のみこそ照らし**しか**。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 **解説：**「照らし」は四段「照らす」連用形。係助詞「こそ」を受けた已然形結び。「月だけが照らした」。「のみ」が限定で「しか」は過去助動詞。

Q80. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

一声（ひところ）**しか**聞こえず。

答え：副助詞「しか」（限定） **解説：**「一声」は体言。体言+しか+打消「ず」=限定の副助詞。「一声しか聞こえない」。

【第4部】入試レベル（Q81～Q100）

係り結び・有名な文脈で、過去「き」已然形と副助詞を確実に判別する。

Q81. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

都にてこそ聞き**しか**、かかる山里にも住む人ありけり。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 **解説：**「聞き」は四段連用形。係助詞「こそ」を受けた已然形結び。「都で聞いた（が）」。已然形で逆接的に下へ続く用法。

Q82. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

花**しか**なくに鳴く鶯。

答え：副助詞「しか」（限定） **解説：**「花」は体言。体言+しか+打消「なく（なし連用）」=限定の副助詞。「花だけしかないのに鳴く鶯」。上代風の用法。

Q83. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

心のうちにこそ思ひ**しか**、え言はざりき。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 **解説：**「思ひ」は四段連用形。係助詞「こそ」を受けた已然形結び。「心の中では思った（が）、言うことができなかった」。

Q84. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

あり**しか**ばこそ、今も恋しけれ。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 **解説：**「あり」はラ変「あり」連用形。連用形+しか＝過去「き」已然形。「しかばこそ」で「あったからこそ」。已然形+ば+こそ。

Q85. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

われ一人**しか**生きて帰らず。

答え：副助詞「しか」（限定） **解説：**「一人」は体言。体言+しか+打消「ず」＝限定の副助詞。「私一人しか生きて帰らない」。

Q86. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

いみじう労（ら）たくこそ覚え**しか**。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 **解説：**「覚え」は下二段連用形。係助詞「こそ」を受けた已然形結び。「たいそういとしく思われた」。

Q87. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

一夜（ひとよ）**しか**契らざりき。

答え：副助詞「しか」（限定） **解説：**「一夜」は体言。体言+しか+打消「ざり」＝限定の副助詞。「一夜しか契らなかった」。

Q88. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

げにと聞こえ**しか**ば、うなづきぬ。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 **解説：**「聞こえ」は下二段「聞こゆ」連用形。連用形＋しか＋ば＝過去「き」已然形。「なるほどと申し上げたので、うなずいた」。

Q89. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

月をのみこそ眺め**しか**。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 **解説：**「眺め」は下二段「眺む」連用形。係助詞「こそ」を受けた已然形結び。「月ばかりを眺めていた」。「のみ」が限定で「しか」は過去助動詞。

Q90. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

我ばかりかく思ふらむと思ひ**しか**ど、さもあらざりけり。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 **解説：**「思ひ」は四段連用形。連用形＋しか＋ど＝過去「き」已然形。「私だけがこう思うのだろうと思ったけれども、そうでもなかった」。

Q91. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

ただ一筋（ひとすぢ）に**しか**頼まず。

答え：副助詞「しか」（限定） **解説：**「一筋に」の後「しか」＋打消「ず」。副詞的な語＋しか＋打消＝限定の副助詞。「ただ一筋だけしか頼りにしない」。

Q92. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

御消息（せうそこ）ありしかばこそ、まゐり**しか**。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 **解説：**「まゐり」は四段「参る」連用形。文中の係助詞「こそ」を受けた已然形結び。「お便りがあったからこそ、参上した」。

Q93. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

鐘の音をこそ聞き**しか**、姿は見ず。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 **解説：**「聞き」は四段連用形。係助詞「こそ」を受けた已然形結び。「鐘の音は聞いた（が）、姿は見ない」。

Q94. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

一度（ひとたび）**しか**会はざりき。

答え：副助詞「しか」（限定） **解説：**「一度」は体言。体言+しか+打消「ざり」＝限定の副助詞。「一度しか会わなかった」。

Q95. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

あはれと見**しか**ば、忘れがたし。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 **解説：**「見」は上一段「見る」連用形。連用形+しか+ば＝過去「き」已然形。「しみじみと見たので、忘れがたい」。

Q96. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

申し**しか**ど、許されず。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 **解説：**「申し」は四段「申す」連用形。連用形+しか+ど＝過去「き」已然形。「申し上げたけれども、許されない」。

Q97. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

ただ名残**しか**とどめず。

答え：副助詞「しか」（限定） **解説：**「名残」は体言。体言+しか+打消「ず」＝限定の副助詞。「ただ名残だけしかとどめない」。

Q98. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

いと心苦しくこそ覚え**しか**。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 **解説：**「覚え」は下二段連用形。係助詞「こそ」を受けた已然形結び。「たいそう気の毒に思われた」。

Q99. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

文（ふみ）**しか**得ざりき。

答え：副助詞「しか」（限定） **解説：**「文」は体言。体言＋しか＋打消「ざり」＝限定の副助詞。
「手紙しか得られなかった」。

Q100. 次の傍線部「しか」を識別せよ。

生きてあらば、かくは嘆かざらまし、とこそ思ひ**しか**。

答え：過去の助動詞「き」の已然形「しか」 **解説：**末尾の「思ひ」は四段「思ふ」連用形。係助詞「こそ」を受けた已然形結び。「生きていたら、こうは嘆かないだろうに、と思った」。

採点振り返り

おつかれさまでした。間違えた問題は、「しか」の直前の語の活用形をもう一度確認しましょう。

- **過去の助動詞「き」の已然形「しか」…連用形＋しか。**「～しかば（～たので）」「～しかど・しかども（～たけれども）」「こそ～しか（係り結び・已然形結び）」が典型。入試で圧倒的に頻出。
- **副助詞「しか」（限定）…体言・副詞など＋しか。**「～だけ・～しか～ない」。下に打消（ず・じ・なし・ざり）を伴うのが目印。上代に多く中古以降は少ない。
- 見分けの軸は「**直前が連用形か否か**」と「**こそ・ば・ど／打消の有無**」。

「しか」を見たら、まず直前が連用形かを確認し、係助詞「こそ」や「ば・ど」を探す習慣をつけましょう。

この問題集は無料です。古文の他の識別（「き」「に」「ば」など）のドリルや、文法解説とあわせてご活用ください。

誰でも古典塾 (<https://kotennosensei.com>) / 個別指導塾フィット・中本裕太